



| | |
|--------------|---|
| Title | 竹中浩教授略歴・主要著作目録 |
| Author(s) | |
| Citation | 阪大法学. 2019, 69(3-4), p. 408-414 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/87239 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

竹中 浩教授
平田 健治教授

略歴・主要著作目録

竹中 浩教授 略歴

昭和二八年八月 岐阜県岐阜市に出生
昭和四七年三月 岐阜県立岐阜高等学校普通科卒業
昭和五二年三月 東京大学法学部第三類卒業
昭和五四年三月 東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了（法学修士）
昭和五八年九月 東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了（法学博士）
昭和五九年四月 大阪大学法学部助教授
平成 七年九月 大阪大学法学部教授
平成 九年八月 大阪大学評議員（平成一一年七月まで）
平成一一年四月 大阪大学大学院法学研究科教授
平成一六年四月 大阪大学教育研究評議員（平成二〇年三月まで）
平成二二年四月 大阪大学教育研究評議員（平成二四年三月まで）
平成二四年四月 大阪大学大学院法学研究科長・大阪大学法学部長（平成二八年三月まで）
平成三一年三月 大阪大学定年退職
平成三一年四月 大阪大学名誉教授
平成三一年四月 奈良大学教授 現在に至る

主要著作目録

I 著書

(1) 学術書

『ソヴィエト政治秩序の形成過程——一九二〇年代から三〇年代へ』（共著）岩波書店
Empire and Society: New Approaches to Russian History. Sapporo: Slavic Research Center. (共著)

『近代ロシアへの転換——大改革時代の自由主義思想——』（単著）東京大学出版会
 『言葉の壁を越える——東アジアの国際理解と法——』（編著）大阪大学出版会
 『日本型法治主義を超えて——行政の中の法の担い手としての法曹・公務員——』（共著）大阪大学出版会
 『模索するロシア帝国——大いなる非西欧国家の一九世紀末——』（単著）大阪大学出版会

(2) 教科書・一般書（すべて共著）

『ロシア近現代史——ピョートル大帝から現代まで——』（ミネルヴァ書房）平成一年六月
 『日本政治——過去と現在の対話——』（大阪大学出版会）平成一七年一〇月
 『大学で学ぶ西洋史（近現代）』（ミネルヴァ書房）平成二三年四月
 『西洋政治思想資料集』（法政大学出版局）平成二六年九月
 『ロシアの歴史を知るための50章』（明石書店）平成二八年一月

II 論文（すべて単著）

『初期スラヴ派の政治思想——コンスタンチン・アクサーコフの政治観を手掛りとして——』
 『国家学会雑誌』九三巻第七・八号 昭和五五年七月
 『道標転換派と一国社会主義』『ソビエト史研究会報告第二集 スターリン時代の国家と社会』 昭和五九年九月

- 「ロシア自由主義とトクヴィル―チチエーリンの『アンシャン・レジームとフランス革命』批判―」
『思想』七三三号
昭和六〇年 七月
- 「ロシア自由主義の形成過程（一）―『大改革』時代における社会認識と制度論―」
『国家学会雑誌』九九卷五・六号
昭和六一年 六月
- 「ロシア自由主義の形成過程（二）―『大改革』時代における社会認識と制度論―」
『国家学会雑誌』九九卷九・一〇号
昭和六一年一〇月
- 「ロシア自由主義の形成過程（三・完）―『大改革』時代における社会認識と制度論―」
『国家学会雑誌』一〇〇卷一・二号
昭和六二年 二月
- 「大改革期ロシアにおける地方行政制度の再編―1906―1907年―」『スラヴ研究』三九号
平成 四年
- 「大改革期のロシア官僚制―アメリカ合衆国の研究における近年の動向―」『阪大法学』四二卷二・三号
平成 四年十一月
- 「ロシアにおける農奴制の廃止と地方政治―一八五七―一八六二年のニジェゴロト県―」
『阪大法学』四三卷二・三号
平成 五年一月
- 「大改革の時代における貴族及び貴族主義」『ロシア史研究』五五号
平成 六年 八月
- 「ソ連邦の歴史学におけるマルクス主義以前の革命運動―革命的ナロードニキ主義とロシア・アナキズムの評価をめぐる若干の問題点について―」『阪大法学』四四卷二・三号
平成 六年一月
- 「帝政期におけるロシア・ナショナリズムと同化政策
―沿バルト地域のロシア化を手掛かりにして―」『年報政治学1994』
平成 六年十二月
- 「大改革期ロシアにおける警察法学と自治論―レシコフの社会法論を手がかりにして―」
『阪大法学』四五卷三・四号
平成 七年一〇月
- 「改革後ロシアのゼムストヴォと立憲主義―一八六五―一八八二年―」『阪大法学』四六卷四号
平成 八年一〇月
- 「近代ロシアにおけるナショナリズムと宗教政策
―ロシア帝国における福音主義的セクトの問題をめぐる―」『ロシア史研究』六四号
平成一一年 四月

- 「帝国の時代におけるリージョンとマイノリティーロシア・メノナイトのカナダ移住を手がかりにして」
『年報政治学2007』Ⅱ 排除と包摂の政治学 平成一九年十二月
- 「帝国の時代における移民問題と黄禍論—マイノリティーの同化に関する比較史的研究のための予備的考察—」『阪大法学』五八巻三・四号 平成二〇年十一月
- 「汎スラヴ主義と露土戦争—大改革後ロシアの保守的ジャーナリズムにおけるナショナリズムの諸相—」『阪大法学』五九巻三・四号 平成二一年十一月
- 「東清鉄道の敷設と露清国境—ドゥホフスコイ総督のロシア極東観を中心に—」
『阪大法学』六一巻三・四号 平成二三年十一月
- О модернизации и ее национальной специфике. // Российская история. № 4.
「北東アジアにおける行政制度の整備と『日本の経験—」『阪大法学』六三巻三・四号 平成二五年四月
- “Twenty Years of the Russian Constitution: Constitutionalism and Local Self-Government.”
Osaka University Law Review, No. 61. 平成二五年十一月
- 「アレクサンドル三世とその時代—ナショナリズムと国家統治の間で—」『ロシア史研究』九四号 平成二六年二月
- 「東アジアにおける法分野の相互理解と日本の役割」『阪大法学』六四巻三・四号 平成二六年一月
- 「ロシア革命とクロポトキン」『Север (セーヴェル)』三二四号 平成三〇年三月
- 「ヴィットテ蔵相期ロシアのジャーナリズムと中国問題—」『ノーヴォエ・ヴレーミヤ』と
『ヨーロッパ通報』の論調を中心として—」『阪大法学』六七巻六号 平成三〇年三月
- 「社会的排除の抑制と公私協働—福祉施策の前提に関する日米の比較可能性をめぐって—」
『日本とブラジルからみた比較法(二宮正人先生古稀記念)』信山社 令和元年七月
- Ⅲ 学会報告等
- 「近代ロシア思想とヨーロッパ」日本政治学会(新潟大学)報告 昭和五九年一〇月
- 「農奴制の廃止と自由主義」ロシア史研究会大会(法政大学)報告 昭和六二年一〇月

政治思想研究会 研究会テーマ「政治思想における非正統的伝統」(慶應義塾大学) 報告

「大改革の時代における貴族及び貴族主義」ロシア史研究会大会(慶應義塾大学) 報告 平成 四年 五月
平成 五年 一〇月

“Land-owning Nobles and Zemstvo institutions: The Post-Reform Estate System in Political Perspective.”

The International Symposium at the Slavic Research Center (北海道大学) 報告 平成 六年 七月
平成 一一年 一〇月

「ロシア帝国の民族政策と宗教」日本政治学会(國學院大学) 報告

「黄禍論とロシア—ロシア極東朝鮮人問題を手がかりとして—」ロシア史研究会大会

(早稲田大学) 報告

「スラヴ世界における西と東」二〇〇九年度 JSSES シンポジウム(秋田大学) 報告 平成 一一年 一〇月
平成 一二年 一〇月

「ドゥホフスコイ総督期におけるロシア統治の諸問題—満洲における鉄道敷設の問題を中心に—」

第五回国際シンポジウム「現代中国と東アジアの新環境—百年中国と周辺地域」(内蒙古大学) 報告

「公法分野の法整備支援」第二回比較法シンポジウム(長春理工大学) 報告 平成 一三年 八月
平成 一四年 七月
平成 一五年 三月

国際セミナー「北東アジアの自治—課題と展望—」(大阪大学) 問題提起

国際シンポジウム「多文化共生時代の法と言語」(大阪大学) 問題提起

「アレクサンドル3世とその時代」ロシア史研究会大会(明治大学) 報告 平成 一五年 九月
平成 一五年 一〇月

「19世紀末ロシアの中国認識と義和団の乱」第九回国際シンポジウム

「現代中国と東アジアの新環境—百年中国と周辺地域」(吉林師範大学) 報告 平成 一七年 一二月

「ロシアの公的部門における法律専門家」

国際シンポジウム「公的部門における法の担い手のあり方と行政法・行政法学」(大阪大学) 報告 平成 一九年 二月
平成 三〇年 一〇月

「明治維新と大改革—比較の可能性と西欧—」ロシア史研究会大会(首都大学東京) 報告

IV 翻訳

I・バーリン「注目すべき一〇年間」『ロマン主義と政治(バーリン選集3)』岩波書店 昭和五九年 九月

メルヴィン・リクター「専制政治」『法・契約・権力』平凡社

昭和六二年 七月

V その他

「Abbott Gleason, *Young Russia: The Genesis of Russian Radicalism in 1860s*

(New York: The Viking Press, 1980, xiv+437pp.)」(書評)『国家学会雑誌』九四巻七・八号

昭和五六年 七月

「近代ロシア思想とヨーロッパ初期スラヴ派思想の継承と展開」(学会報告の要旨)

『年報政治学』1985』

昭和六一年 三月

「『専制政治』について」(翻訳の解説)

昭和六二年 七月

“Debate.” in: Takayuki Ito (ed.), *The World Confronts Perestroika: The Challenge to East Asia*.

Sapporo: Slavic Research Center.

平成 三年

“Comment.” in: Osamu Ieda (ed.), *New Order in Post-Communist Eurasia*.

Sapporo: Slavic Research Center.

平成 五年

“SUGIURA Shuichi, *Rosia Jyushugi no Seiji Shiso* (Political Philosophies of Russian Liberalism)

(Tokyo: Miraisha, 1999). 363 pp.” *Japanese Slavic and East European Studies*, vol. 20. (書評)

平成 一一年 三月

「Mary Schaeffer Conroy (ed.), *Emerging Democracy in Late Imperial Russia: Case Studies on*

Local Self-Government (the Zemstros), State Duma Elections, the Tsarist Government, and the

平成 一二年 四月

State Council before and during World War I」(書評)『ロシア史研究』六六号

「近代ロシアにおける自由主義の諸問題―杉浦秀一著『ロシア自由主義の政治思想』を読んで―」

平成 一二年 九月

(書評)『史学雑誌』一〇九編九号

平成 一二年 一〇月

「比較のなかの近代ロシア」『UD』二九巻一〇号

平成 一二年 一〇月

“NAKAMURA, Yoshikazu, *Baki o yuke: Rosia no heiwashugisha tachi no kiseki* (Burn Arms:

The Track of Russian Pacifists). Yamakawa shuppansha, 2002. 198pp.” *Japanese Slavic*

平成 一五年 五月

and East European Studies, vol. 23. (書評)

- 「高橋一彦著『帝政ロシア司法制度史研究―司法改革とその時代―』」（書評）『史学雑誌』一一一編七号 平成一四年七月
- 「アレクサンドル一世」『歴史学事典』第二二卷（弘文堂）（平成一七年三月）
- 「豊川浩一『ロシア帝国民族統合史の研究―植民政策とバシキール人―』」（書評）『西洋史学』二二五号（平成一九年六月）
- 「橋本伸也『帝国・身分・学校―帝制期における教育の社会文化史』」（書評）『ロシア史研究』八七号（平成二二年二月）
- 「鶴見太郎『ロシア・シオニズムの想像力…ユダヤ人・帝国・パレスチナ』」（書評）『ロシア史研究』九〇号（平成二四年二月）
- 「科研基盤研究B中間報告書「公文書管理法制の比較法政史 データブック編」」（平成二五年三月）
- 「科研基盤研究B成果報告書「公文書管理法制の比較法政史 分析編」」（平成二六年三月）
- 「科学研究費補助金基盤研究A成果報告書（編集）「高度法情報発信のための多言語情報の最適組み合わせに関する研究」」（平成二六年三月）
- 「牡丹江市とその周辺」『Ceap（セーヴェル）』二二〇号（平成二六年三月）
- 「満洲里、ジャライノール、フルン湖」『Ceap（セーヴェル）』二二三号（平成二九年三月）